



'To acknowledge the duty that accompanies every right'
 Affiliated with the International Association of Y's Men's Clubs

THE OSAKA CENTENNIAL

C/O OSAKA YMCA
 1-5-6 TOSABORI, NISHIKU,
 OSAKA, JAPAN

2017年4月No.419
 Chartered July 20, 1982

主 題 Y's THEME (2016~2017)	クラブ役員 Officers
センテニアルクラブ会長 : 『笑顔と感謝の1年に』 国際会長 : 『私たちの未来は、今日から始まる』 アジア地域会長 : 『ワイズ運動を尊重しよう』 西日本区理事 : 『ワイズ魂で、更なるワイズの活性化を!』 中西部部長 : 『世界をみつめ、地域とあゆむ』	会 長 : 藤井 大祐 副会長 : 三浦 直之 書 記 : 藤原 正巳 ドライバー : 松浦 孝次 会 計 : 岡本 剛介 メネット会長 : 松浦 和子 Y連絡職員 : 船戸 輝久

Biblical Message of April

御恵みはいかに豊かなことでしょう。
 あなたを畏れる人のためにそれを蓄え
 人の子らの前で
 あなたに身を寄せる人に、お与えになります。

(詩編31編20節)

April Club Meeting

『YMCA サービス』

4月第1例会

日 時 : 2017年4月19日(水) 18:45~20:45

場 所 : ホテルグランヴィア大阪

司会 : 中井 祥子 君

1. 開会 三浦 直之 君 (会長代行)
2. ワイズソング 一同
3. 聖句朗読 谷川 寛 君
4. ゲスト・ビジター紹介 三浦 直之 君 (会長代行)
5. 今月の強調月間 三浦 直之 君
6. 晚餐 一同
7. 卓話「世界YMCA 同盟企画聖地訪問
 ~イスラエル・パレスチナ最近事情」
 谷川 寛 君
8. オークション 岡本 剛介 君
9. 誕生祝い・ニコニコ献金 一同
10. 連絡・報告・ニュース 各メンバーから
11. 閉会 三浦 直之 君 (会長代行)

お誕生日 : 隅田メネット、

※プレゼントは、巻頭言執筆者の中井祥子メネットがご用意ください。

例会担当 : 1班 : 大村、角地、藤井、山田、山中の各メン

4月第2例会

日時 : 2017年4月26日(水) 18:30~20:30

場所 : 土佐堀YMCA会館4階

オペラの語源

中井 祥子

ようやく暖かくなり、例年よりゆっくと桜が楽しめる4月となりました。今年は地元豊中市のホールが新築されたこともあり、2月・3月と自主公演を開催し、親子向けコンサートとオペラ公演が無事に終演いたしました。

さて、私たち声楽家が日頃学び、表現しているオペラの世界ですが、そもそもオペラとはどういう語源かご存知ですか?面白いのは「手術」を意味する「オペ」と関係が深い点です。英語のオペレイション Operation は、ラテン語のオプス opus に由来する言葉で、元々「仕事」や「働き」の意味です。Opus の複数形は opera (オペラ) になります。現在ではオペラは「歌劇」と訳されますが、元は「作品」のことを指した言葉でした。オペラは、音楽、管弦楽、美術、衣装、バレエなどが合わさった『総合芸術』なので、「たくさんの作品」が転じて「歌劇」と訳されています。近年ワインで一躍有名になった「オーパス・ワン」も作品 1 という意味で同じ語源ですね! お酒に話が飛んだところで、6月に無事出産して授乳が終わったら再び飲めるのを楽しみに、子育て・音楽共に頑張っていく所存です。美味しいワイン教えてください!

【クラブ統計 Statistics】

3月		種 別	第1例会	第2例会	BF ポイント		ニコニコ献金	
在籍会員	21名	メ	16名	10名	3月	Og	3月:	17,500円
例会出席	16名	ネ	5名	0名	現	金		
うちメーキャップ	0名	ジ	1名	0名	累	計		
出席率	76.2%	タ	1名	0名	切	手		
		合	23名	10名	現	金	累計:	246,679円
		計					オクソソ:	5,400円

東日本大震災 ～あれから6年が過ぎました。讃美歌21の451番の「アメージング・グレース」(くすしきみ恵み われを救い、まよいしこの身もたちかえりぬ。)の歌詞を思い起こします。英語の原詩は次のような歌詞です。

Amazing grace! How sweet the sound. That saved a wretch like me!

I once was lost, but now am found. Was blind, but now I see.

この讃美歌の作詞者は、John Newton (1725-1807) という英国人です。この人は船乗りとしてアフリカ大陸からアメリカ大陸に黒人奴隷を輸送する「奴隷貿易」に手を染め、巨万の富を得ました。やがて、John Newton に転機が訪れます。1748年5月、彼が船長として任された船が嵐に遭い、今にも転覆する危険な状態に陥りました。彼は必死になって神に祈りました。すると船は奇蹟的に嵐を脱し、難を逃れました。その後病にかかったのを機に船を降り、やがて教会の牧師になりました。そして、1772年に誕生したのが「Amazing Grace」の讃美歌です。彼は神に救われた「驚くべき恵み」(Amazing grace)と、それ以前、奴隷貿易で利益を貪っていた時の自分を対象に「惨めな自分」(a wretch like me)と述べています。

「----- わたしはかつては失われていたが、今は見出されている。かつては、盲目であったが、今はすべてが見える。」

(聖句選/コメント：谷川 寛)

3月第1例会報告

と き：2017年3月15日(水) 18:45~20:45

ところ：ホテルグランヴィア大阪 21 階

まだ寒さが残る3月例会は、ゲストを含め23名が参加し開催されました。

メインの卓話は、東洋医学や道教、武術などに興味をもち、小学校の教師のかたわら、中国、台湾、マカオなど100回以上訪れ、著書も多く出されている東洋思想研究所主幹の川瀬健一さん=写真=に、「日本と台湾の映画の架け橋」というテーマでお話しいただきました。最初に日本でも馴染のある女優・李香蘭の「サヨンの鐘」や、機関誌の寄稿を通じて知り合った司馬遼太郎さんとのエピソードなどを話した後、台湾の民主主義の原点ともいわれる流血、弾圧事件「二二八事件」発生後の映画の状況、ご本人の近著である「台湾で上映された映画 1945-1949」を中心にお話をうかがいました。49年以降の研究はあるものの、この間の資料は乏しいとのこと。長年の川瀬さんの地道な取材の中で得られた貴重な資料にもとづき、終戦後、日本映画の上映は禁止されたにもかかわらず、8ヵ月は上映されたこと、またその後も米国映画などの字幕に日本語が使われたなど、当時の社会情勢と映画とのかかわりについて興味深いお話を聞くことができました。最後は台湾の歌をハーモニカで締めくくり、レトロな台湾の風情を体いっぱい感じる例会となりました。

中村 茂高

≡≡≡ Club Activities March, 2017 ≡≡≡

On March 15, our club's March meeting was held at Hotel Granvia Osaka with a total of 23 Y'smen, Y's menettes, and guests in attendance. The highlight of the meeting was a speech made by Mr. Kenichi Kawase, a researcher of movies of Taiwan and chief editor of the Research Institute of the Oriental Ideology in Nara.

He spoke under the theme, "A bridge between the movies of Japan and Taiwan", as he has been devoting himself to the history of the movies of Taiwan as his lifework research.

He has given lectures at Taiwan National University and two other national universities. Besides, he has spoken of his research over the radio of Taiwan Central Broadcasting Station and Taiwan International Broadcasting Station as well. Since Taiwan had been a colony of Japan for 50 years from 1895 to 1945, there were some changes in their movies before the present form was settled on. Showing a few very precious historical materials, he told us how people enjoyed Japanese movies, though they were sometimes influenced by the ruling colonial government.

After independence from Japan, no big changes were made in producing movies in Taiwan, though ruling Chinese Nationalist Party government tried to sweep away Japanese influences in every field. This was because of misruling of CNP government and because of pro-Japanese feelings among people in Taiwan.

Recently, two Taiwanese movies were shown in Japan which created sensation among the Japanese. These movies described strong bonds of friendship existing between both people in Taiwan and Japan. What he told us was interesting and touching. We learnt a lot from him.

Finally, we enjoyed Mr. Kawase's performance of harmonica who played a popular Taiwan song.



2月15日、同志社大学でイランの女性副大統領＝写真＝の講演会がありました。主催は一神教研究会で、笹川平和財団の招きで来日しました。ご存じのようにイランは豊富な天然資源を持つ国です。核開発問題で米欧から最近まで経済制裁を科せられていました。そのため同国に関する情報が限られています。2016年に、この経済制裁が解かれましたが、国交のない米国との緊張はいままも続いています。オバマ政権は、対イラン融和路線をとっていましたが、トランプ政権となり、これが後退した感があります。

いまイランは、国際社会への本格的復帰を目指しています。同国政府は「女性の社会参画」を重点課題のひとつに掲げ、今回来日のモラベルティ副大統領は、「同国の女性の社会参画の現状、政府の取り組み」と題した講演でした。

人口8,000万の半分は女性で、高学歴の女性が増加していますが、彼女らに対する社会的偏見、不平等は相変わらず厳しく、公平な雇用の機会を提供すること（Empowerment）が大きな社会的テーマであると、話してくれました。

イランは中東のなかでユニークな国です。イスラム教でも、シーア派という少数派に属し、民族的にはイラン人はアラブ人と異なります。国語のペルシャ語は、アラビア語とは異なり、イスラム教が伝わるはるか前から栄えていたペルシャはその文明に強い誇りを持っています。講演は通訳を通して、ペルシャ語でしたが、講演後の雑談では、大変きれいな英語をしゃべっていました。女性副大統領は二児の母です。イスラム教の教えを厳格に実践するサウジのように全身を黒い衣装「アバヤ」でまとつとは異なり、スカーフはしていますが、顔は覆わず常に微笑みを絶やさないペルシャ美人でした。



3月第2例会報告

と き : 3月22日(水) 18:30~20:30

と ころ : 大阪YMCA 会館4F

出席者 : 石津、大村、岡村、芝田、谷川、中村茂、藤原、何、松浦、三浦の各メン

〈ワイズ活動〉

- ・ハワイ・ヌアヌクラブのミーリス・シモニシ会長と西日本区大会中のIBC交流の件、6/11ランチで検討中。
- ・六甲山YMCA施設整備・掃除 4/15(土) 昼食千円。交流会(夕食BBQ)3千円。大村、三浦、山田各メン
- ・ファミリーコンサート 5/20(土) チケット販売状況の確認
- ・うなぎの森 5/14(日) 参加費2千円。参加者:大村、芝田、中村、何、三浦の各メン。

〈クラブ活動〉

- ・「ワイズ将来構想特別委アンケート」
- ・キック・オフ・ミーティング 5/6(土) 13:00~17:00 会議、17:00~19:00 懇親会、山西記念福祉会館。会費4千円。
- ・5月例会 5/17 卓話「日本のキリスト教の現状と課題」
大阪教会主任牧師 岡村恒氏
- ・6月例会 6/21 卓話「フィンランドを知ろう~この素晴らしい世界~」英会話教室講師
エリキ・ヒエタラフティ氏
(第2例会議事録より抜粋)

YMCA ニュース

☆大阪YMCA 2017年度年間聖句・讃美歌が決まりました。

★年間聖句 : 「すべての人に仕える者になりなさい。」

(マルコによる福音書 第9章35節)

大阪YMCAに繋がるすべての一人ひとりが、支援を必要としている人のことを考え、受け入れ、寄り添い、課題解決に向けて共に行動を起こす一年でありたいと願います。「すべての人に仕える」という生き方は、大阪YMCAの使命にある「イエス・キリストの愛と奉仕の生き方」に学ぶ姿を示しています。

★年間讃美歌 : 讃美歌21-210番「来る朝ごとに」

神様に生かされていることに感謝し、一日一日をどう生きることが大切かを示されている讃美歌です。日々の忙しさの中で、忘れがちなイエス・キリストの生き方に学ぶ姿勢を思い起こさせてくれます。また、朝・夕の歌としてキャンプでもよく歌われており、子どもから大人まで幅広く共感できる歌詞と親しめるメロディーです。

★第288回 早天祈祷会

日時…2017年4月21日(金)7:30~8:30

奨励…千松 清美さん(日本聖公会 石橋聖トマス教会 司祭)

場所…大阪YMCA会館 10階チャペル

船戸 輝久



ニコニコ・メッセージ



【Messages from the Club Members】

《ゲストからのメッセージ》

○映画と台湾の話を楽しく聞かせていただきました。「ウナギの森」のアピールをさせていただき、多くのメンバーに植樹をしていただきたいと思います。ご参加お待ちしております。

(奥田 時夫)

《会員、メネットからのメッセージ》

○台湾は未知のところですが、時代の流れが分かり、良く学ぶことができました。ありがとうございました。(石津 雅人)

○川瀬さんの、戦前戦後の台湾の、興味深い話が聞け、大変よかったです。(大村 肇)

○台湾は近いのに行ったことがない国です。エキゾチックなイメージと、活気あるイメージとが入り混じっています。いつか訪れてみたいです。(坂本 千春)

○台湾は、「食」を楽しむ旅としてしか行ったことがありませんでしたので、文化を知ることができ、有意義でした。

(岡本 剛介)

○台湾への日本統治時代の珍しい卓話をしてくださり、大変興味深く聞かせていただきました。(芝田 光雄)

○昔の台湾の話、懐かしく聞きました。(谷川 寛)

○義父の出生地が台湾ということで、いつか行ってみたい、台湾への興味が増す卓話でした。いよいよファミリーコンサートに向けて、今年もお役に立てるよう準備を始めます！

(中井 祥子)

○親日の台湾が、日本の当時の誠実な先達により信頼を得てきた様子、また映画が時代の世相を表していることをあらためて学びました。(中村 茂高)

○ファミリーコンサートのチラシが可愛くて、今年も成功するでしょう。(中村 幸枝)

○川瀬健一さんの台湾映画の歴史を通して、改めて日本と台湾の関係の大切さを学ぶことができました。感謝です。

(船戸 輝久)

○台湾のお話を聞くことができ良かったです。6月に初めて台湾に行きます。とても楽しみにしています。(何 早林)

○センテニアルの例会は華やかで、本当に楽しい集いです。これもメネットの皆さまのおかげと、大変感謝しています。川瀬様の台湾のお話、5月末から6月にかけてクルーズで台湾に参りますので、台湾に対する理解が更に深まりました。

(藤原 正巳)

○台湾、近くて遠い国です。かつての、日本の「台湾統治」に対する引け目？を感じるからでしょうか。もっとも、数年前に妻と2人で訪れて、その歴史・風土に触れ、また「食」をはじめ、台湾の方々是人当たりがよく、「居心地がしっくりくるところ」という、よい思い出を持っています。(松浦 孝次)

○台湾のお話、興味深く聞かせていただきました。また台湾に行きたいなと思っています。先週 宮古島(沖縄)に行ってきました。海がとてもきれいでした。(松浦 和子)

○3月というのに今日は寒いですが、例会は温かい雰囲気でした。川瀬様の台湾のお話、大変興味深かったです。ありがとうございます。(三浦 直之)

○センテニアルワイズの例会は、いつもながら話題が豊富で、いろいろ新しいニュースに接することができますね。その点で、この会に出席するのが毎月の楽しみです。(山田 孝彦)

○お水取り 満願前夜の3月13日、二月堂内陣で諫行衆の修行に立ち合い、ダツタンの踊り、五体投地に圧倒されました。松明を振り回すと周り一帯に灰と火が降り注ぎ、恐いのは木の割れ目に入った火灰で、終了と主に二月堂の廊下、柱を水浸しにして幕を閉じました。(山中 秀男)

○ウクレレ、自宅練習不足で、芝田メンにお手数をおかけしました。もう少し、自宅で頑張ります。(山中ちあき)

後記

3月例会の卓話者の川瀬健一さんとは不思議な縁で、共通の友人を介して知り合ったのですが、年に1回、あるいは数年に1回途切れることなくその友情は続いています。いつも天王寺の中華料理屋で、餃子とビールをつまみながら、川瀬さんの話に耳を傾けるのが常ですが、非常に計画的に物事を進めるやり方は料理の注文の仕方にも表れています。まず晩酌セットを注文する。生ビール1杯と餃子が2人前にもう一品付く。それぞれが食べ終わる頃、フライ麺を注文し、生ビールを追加して、それを二人で分ける。それで終わり。非常に安上がりですが、それで二人とも満足しています。川瀬さんが年に5回、1回につき、1ヵ月間、台湾で滞在するにはそれなりにお金もかかります。金の使い方はとても厳密です。川瀬さんは、台湾の留学生を自費で支援をしていたこともありました。実に飄々として、人生を達観した風情がいつもあります。その夢を追いかける姿は実に尊敬に値します。

S.N